

キリスト教保育連盟 神奈川部会 2018年度主題  
**イエスさまとともに生きる**  
 ～愛の交わりの中で～

聖句「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。」  
 —ヨハネの手紙1 4章11節

# 部会だより

キリスト教  
 保育連盟  
 神奈川部会  
 2019年1月24日  
 第135号



「祈り合う仲間たち」  
 片瀬教会付属 片瀬のぞみ幼稚園  
 園長 草ヶ谷 弘子

◆聖句◆  
 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」  
 テサロニケの信徒への手紙 5章16～18

家族の中に教会の関係者もなく、それまでの出会いの中でもキリスト教との関わりがなかった私が、初めての職場として教会付属幼稚園に勤務することになったのが数十年前に、現在までこの園で勤務させていただきましたが、どの園も「イエスさまの幼稚園」です。子どもたちのかかわりの中で変わらぬ聖書の教えがあることの安心感から受洗も決心しました。途中、他の仕事も経験しましたが、どんなに足掻いてみても神さまは私の襟首を掴んで必要とされる場所に置いてくだ

さる…そんなことを感じている日々です。  
 今年、片瀬のぞみ幼稚園には、嬉しいことがありました。卒園児が保育者となって園に戻ってきたのです。新任教師の一学期は不安ばかりで、子どもたちの生活を楽しむ余裕はなかったようです。園毎に違いがありますが、他園で保育を経験してきたベテラン保育者も一年を過ごしてみなければ不安は解消されません。新人保育者も、運動会が終わった頃から、子どもたちの生活が楽しく感じられるようになって、笑顔が増えてきました。同僚との信頼関係もでき、子どもたちとの生活が楽しくなって、狭い園庭を（小さな幼稚園ですから）汗だくになって走り回っています。  
 さて、片瀬のぞみ幼稚園の朝は、讃美歌を歌い聖書を読んだり、祈り、お祈りから始まります。数年前から当時の牧師園長の提案で、毎日二名の子ども名前を挙げて祈っています。子どもたちの顔が頭に浮かぶ、健康のこと、友だち関係、家族のことなどいろいろなことに思いが及ぶ大切な時となっています。人数の少ない園なので、年に数回同じ子どもの名前が挙がります。その祈捧会には、朝預かりの子どもも加わりますので、自分の名前がお祈りの中に



てくる…驚きながらも「アーメン」の声が普段より大きいように感じます。最後は皆で「主の祈り」：年長児が、卒園前に覚える「主の祈り」ですが、教会学校に出席している子どもも、朝預かりが多いようです。そして、前に覚えてしまっています。祈りで始まり、祈りで終わる「イエスさまの幼稚園」：一昔の前で祈るのは緊張する…と言っていた新任保育者の素直な祈りに、先輩保育者たちも励まされています。クリスマスチャンもそでない者も皆が子どもたち、同僚そして同じ志の園のために祈り「イエスさまの幼稚園」のために努めたいものです。

森先生の講演を聞いて  
 桜ヶ丘幼稚園 福原 恭子 教諭  
 レッジョ・エミリアを知ったのは十五年前、雑誌に掲載されていた記事を読んだ時でした。子ども達の周りには豊富な素材があり、それを主体的に使い遊びを展開していく記事が掲載されていた。その記事に魅了され、いつか行ってみたい、私も少してでもこんな保育ができたらの思いを持っていました。最近、レッジョ・エミリアを研修会で聞くようになり、益々世界中から注目を浴びていることを知り、子ども達の限らない可能性にワクワクし、子ども達を取り囲む大人や市の姿勢に感服させられ、どうするぞこのような文化が育つていくのか、私にできることは何なのか考えたいと思います。  
 今回の講習会の中で観た映像で子ども達が対話を大切に、プロセスを楽しみながら作っていく姿はとても興味深く、出来上がったものでもアーティスティックで驚かされました。考えること・意見を聞くこと・インスパイアされること・一緒に作っていくことをとても楽しんでるように感じました。そしてその場には、よく吟味された本物の素材・空間・時間・場があり、レッジョ・エミリアにあるものは全て、子どもにとって良い物、つまり大人にとっても子どもにとっても本物があるのだと思いました。本物と対話して子どもから生み出されるものほど素晴らしい物はないと思います。  
 今回、大好きなレッジョ・エミリアに関する森先生の講演会の感想を依頼され、神さまの恵みを感じ、また、さらに、自分の保育を見直すように言われているように感じました。

## 役員会報告 書記 田名網仁

役員会は九月十八日火、十月十三日(火)、十月十五日水・クリスマス礼拝後に開催されました。主なことを報告いたします。  
 ◆夏期講習会  
 八月二十一日火、捜真学院七号館にて行われました。開会礼拝で日本バプテス深川教会の清水美穂先生よりメッセージをいただきました。続いて講演は講師として、西南学院大学教授の深谷潤先生をお招きし、お話しをして頂きました。一九二人が参加しました。  
 ◆中堅保育者研修会  
 九月五日(水) 関東東学院大学内メディアセンターにて行われました。講師として、ルーテル雪ヶ谷教会の田島靖則先生をお招きし「倉橋惣三とキリスト教保育の自由になるために信じる」のテーマでお話をいただきました。三九人が参加しました。  
 ◆第二回講演会  
 十一月二十一日水、野毛山キリストの教会礼拝堂にて、鶴川女子短期大学教授の森真理先生をお招きし、「子どもを丁寧に育てることとは？」とレッジョ・エミリアの乳幼児教育との対話から」のテーマで映像も交えてお話し下さいました。二二一人が参加しました。  
 ◆クリスマス礼拝  
 十二月五日水、清水ヶ丘教会にて、横浜愛護幼稚園園長、横浜上原教会牧師の平田一吉先生よりクリスマスマツページをいただき、その後、かえり幼稚園とみくに幼稚園の皆さんのリードにより楽しいクリスマスマソングの一刻を過ごし、恵みのうちにクリスマスの喜びを分かち合いました。各園からのクリスマス献金二四万三千円は国境なき医師団、連盟の被災地支援、バット博士記念ホーム、横浜訓言学院にお送りしました。一五八人が参加しました。  
 ◆設置者・園長・主任研修会  
 十二月二十六日水、関東東学院大学内メディアセンターにて行われました。講師は穂ワケ・イノベーションの菊地加奈子先生で「働きやすくやりがいのある保育の職場作りのために」のテーマでお話し下さいました。三一人が参加しました。  
 ◆保育環境研修会と全体主任会  
 二十九年一月九日水に保育環境研修会が行われ、その後、全体主任会が、浅野記念御深端幼稚園にて行なわれました。四五人が参加しました。

◇発行日 2019年1月24日  
 ◇編集者 神奈川部会 広報担当  
 認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子  
 認定こども園 関東東学院のびのびのば園/浦尻友紀  
 ◇デザイン 永野絵理世  
 ◇イラスト提供 浅野記念御深端幼稚園



●●●編集後記●●●  
 この1年は各所で災害があり、心を痛めることが多くありました。子ども達と共にそのことを祈りつつ、当たり前の日常を過ごせることに感謝したいと思います。原稿をお寄せくださった先生方、ありがとうございます。他園の様子を知ること大きな学びになりました。また新しい年度に向けて力を合わせて保育に励んでいきましょう。



## 保育参観から 保育参加へ

認定こども園 真幼幼稚園  
主幹 保育教諭 黒坂綾子

以前の保育参観では、毎回保護者の方々が子どもと遊んでしまったり、逆に子どもが保護者の方にくっつきて離れないという問題がおこりました。そこで十数年前になりますが、私たちは視点を変えて、保護者の方に子どもたちと一緒に遊んでもらうことにしました。遊ぶだけでなく、保育者体験の要素も含めテーブルを運んでもらったり、昼食後に絵本を読んでもらうこともしていました。

このように参加型にしてから、「幼稚園生活がよくわかった。」という感想をいただいたり、「先生たちの体力はすごいですね。」と感心されたりしています。保育参加の日として、日程は園側で選びます。年中は六月頃、年長は一月頃で、一日六～八人をこちらで決めています。時間帯は十一時十五分から十四時までで

す。目的や注意事項も加えて、あらかじめ「保育参加のお知らせ」というお手紙を出します。諸注意として、いくつかのことを掲げていますが、保育参加の直前にもう一度口頭でもお伝えします。普段そのままの姿はなかなか見られないこと、参加中に見たことは園生活のほんの一部であること、そして、保育参加以外の人にわざわざ心配をかけるようなことを伝えないようお願いしています。最近では、お父さんの参加も増え男性保育者のようにパワフルに動いてくださっています。男の子のお母さんが「女の子たちとおままごどができて嬉しかった!」とおっしゃっていたのが印象的でした。これからも遊びを中心に、子ども親も楽しむ日と

めて改善したいといえる、という思いから、私はその日から「年三六五日(といっても休みの日ももちろんあるけれど)、いつでも保護者から希望があった場合には、保育を公開する、つまり毎日が参観日」という公開をたてた。



## 保育参観とは なんだろう?

野末学園 中山幼稚園園長  
松蔭大学准教授 野末 晃秀

保育参観とは何か、を記す前に、そもそも中山幼稚園では保育参観を行っていない、という事実を記さなくてはならない。少なくとも四十五年以上以前には保育参観を行っていたことは確かであるが、もうずいぶん前に様々なことを懸念した末に、保育参観を廃止したのは、何であろう私、である。

廃止した理由は、①あまりに保護者同士のマナー(特におしゃべり)が悪く、そのたびに注意をしてもおさまらずあきれ果てたこと ②保育者も園児も緊張するような(つまりは通常とは違う形態と環境にならざるを得ない)保育活動を公開して意味はあるのか、疑問に思ったこと、である。確かに思い出や、記憶の片隅に残るイベントとしては有用なのかもしれないが、何十人も保護者がいる前で、自然ではない保育を公開したところで、それは「保育参観」になるのだろうか、と判断したわけである。

廃止した理由があるからには、最初に代わる何かを用意してこそ、初

## 見直す勇氣

電ヶ丘幼稚園  
フリー教諭 大西 津津子

これまで、保育室が狭いこともあり保育参観を廊下から参観していたておりました。そして保育中の撮影も廊下から許可しておりました。ですが、幼稚園で過ごす子どもたちの姿をたくさん保護者の方に観てもらい、もっと幼稚園を知って欲しいとの思いから先生方で参観の見直しを今年度いたしました。

まず、保育室に入っただけの様子を見ていただく為、クラスの男女で参観日を分けました。各クラス二日間ずつ参観日があるので保育内容に差が出ないよう二日間の内容に気を配り準備しました。子どもたちが普段どおり保育に集中出来るように撮影なども、遠慮してもらおうように協力願いました。いままでは参観の形に縛られていた先生方も今回の見直しにより保護者との距離がグッと近くなりましたように感じているようです。

それから、お誕生日会も今大幅に見直しをいたしました。我が園の給食は園で調理している温かい給食です。年一回五月に行っている保護者向けの試食会には、たくさんの中

## 参観日、懇談会の 在り方について

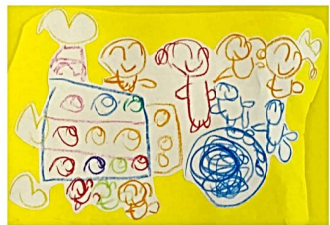
横須賀上町教会付属  
めぐみ幼稚園 教諭 上杉 紗織

私達の園は、教会附属の園児数十五名のとても小さな幼稚園です。そのため日頃より保護者との関わりも多く、子どもたち一人一人に細やかな配慮や援助を行なうように心掛けています。

しかしながら、日々の園での出来事や様子などをすべて保護者に伝えることは容易ではありません。そこで、学期末ごと計三回のクラス懇談会と六月と十一月に一回ずつの参観日を設けております。

保育参観は、幼稚園で身につけた習慣や子ども同士の関わりなども見て頂くことで、ご家庭での生活にも生かして頂きたいと考えています。幼稚園の中だけでは中々習慣化することは難しい面もあるため、家庭での協力が不可欠となるので、特に大切なことなどは懇談会などでも伝えるようにしています。

また、その時期の製作物や絵などを展示して、子どもたちの成長や保護者同士の会話のきっかけにもなればと思っています。そして何よりも大切にしているこ



込みがあります。ですが子どもたちがクラスでどのように配膳しどのようなお祈りもつて給食の時間を過ごしているか保護者の皆さんにお伝え出来る場がなかなか取れずにはおりました。そこで、全国園からお誕生日のお祝いを送ってもらうお誕生会の日、昼食は、保護者の方にもお子さまのクラスで共に召し上がっていただくことにいたしました。保護者の方々からは「美味しかった。」という子あんな風にみんなと食事を「うちさんです。」と好評をいただきました。

前から行っている行事や保育の内容など見直し変えて行くことにはなかなか保護者や先生たちも始めは抵抗がありますが、変えて見直す勇氣がある。また一つ保育の幅が広がると、たくさんのお返事が届くように思えます。



とは、キリスト教保育の土台となる礼拝です。

お祈り、賛美歌、聖書の御言葉を通して、保護者の方も参観日には子どもたちと一緒に礼拝を守ります。そのことにおいて、神様の愛と守りの中で保育がすすまれているということを理解していただいています。幼稚園と保護者が同じ意識を持ち、園に対する理解が深められる時とすればと願っています。

懇談会の際には様子を伝えるだけでなく、保護者からの意見も聞いて、子どもにとって良いものは保育に生かして、保護者にとって安心して預けていただける環境づくりとより良い保育の向上へと繋がるよう勤めています。

